

8 平成 18 年度教育改革国際シンポジウムー知識基盤社会に求められる教員像
研究代表者 小松 郁夫（教育政策・評価研究部 部長）

①研究の趣旨，ねらい

国立教育政策研究所では、文部科学省と共催で、平成 13 年度から、諸外国の教育改革の最前線で活躍する専門家を招聘し、各国の経験から学び、教育改革の実践に活かしていくという主旨で教育改革国際シンポジウムを開催している。

②研究成果の概要

○平成 18 年度は、平成 18 年 12 月 16 日に「知識基盤社会に求められる教師像」をテーマとして、国連大学 ウ・タント国際会議場を会場として、開催した。

○プログラムの内容は次の通りである。

基調講演

「知識基盤社会に求められる教員像：教員確保・資質向上のための取組み」
合田 隆史（文部科学省初等中等教育局担当大臣官房審議官）

講演

「リーダーシップ、教職、持続性と変化」

アンディ・ハーグリーブス（アメリカ：ボストン大学）

「知識基盤社会のための教育改革？ 1976 年以降のイギリスにおける説明責任、選択、教育変革」

ゲーリー・マカロック（イギリス：ロンドン大学教育学研究所）

「韓国の教育改革と教員政策の動向：21 世紀の教員像を求めて」

鄭 廣姫（韓国：韓国教育開発院）

「『学習する国家』を築く：知識基盤社会の課題へのフィンランドの対応」

パシ・サルベリ（フィンランド：世界銀行、元フィンランド教育省）

全体討議

パネリスト：アンディ・ハーグリーブス

ゲーリー・マカロック

鄭 廣姫

パシ・サルベリ

コーディネーター：葉養 正明（東京学芸大学 教授）

小松 郁夫

（国立教育政策研究所教育政策・評価研究部長）

- 本国際シンポジウムの開催主旨は、現在日本では、専門職大学院、免許更新制、教員評価など、教員をめぐる様々な課題に直面している。教員問題は、多くの国が抱える教育課題であり、各国が様々な改革に取り組んでいる。そこで、諸外国の取組みやアイデアを共有し、議論することを通して、これからの社会に求められる教員像の構築と、その教員にとってよりよい教育環境を整備するための教員政策の在り方について検討することである。
- 日本からは文部科学省の合田氏から日本で進められている教員に関わる政策動向について、その内容と背景について基調講演をいただいたあと、アメリカ、イギリス、韓国、フィンランドの研究者から、各国の取組み内容やその政策の基盤となる考え方などについて講演をいただいた。
- 全体討議では、各氏の発表を踏まえて、コーディネーターの葉養氏が講演全体を①教員の使命、②学校の役割、③社会の持続可能な発展、④教員評価、⑤ステイクホルダー間の意識のずれ、⑥教員の役割、⑦教職の信頼性、専門職性という7つの視点からまとめたあと、フロアーからの質問を踏まえ、教員の使命と教員評価の2つの点から議論を行った。

③中期目標との関連性

- 目標8「文部科学省及び関係する研究機関等との連携協力の推進」に（1）文部科学省との連携協力の推進」とある。本国際シンポジウムは

文部科学省との共催であり運営面での連携協力を行っている。また、同省の関係者の基調講演をいただき、企画内容面でも連携協力している。

○目標 9 「研究成果の国民への還元と広報活動の推進」に「(1) 冊子の発行や会議・セミナーの開催等を通じての教育関係者や研究者に対する研究成果の還元」及び「(3) 本研究所の存在意義や活動内容等について広く国民の理解を深めるための広報活動の実施」とある。

○本シンポジウムには、小・中・高等学校の教員や大学関係者の他、教育委員会関係者、教育研究所関係者などが参加され、教員政策及び教員像に関する研究成果を学校及び教育委員会等の関係機関や研究機関に広く普及するという目的は概ね達成できた。

○また、アンケート用紙にも、各国における教員施策の相違点や類似点、その背景や考え方等を直接知るきっかけになったことを評価する意見や、このシンポジウムが日本の教員政策に活かさせることを期待する意見などがあり、政策研究所としての本研究所の存在意義や活動内容等を広く国民の理解を深めるという点も達成できたといえる。

④今後の研究予定

○平成 19 年度は、「学校教育における科学的リテラシーの現状と今後の育成方策」をテーマとして、文部科学省とブリティッシュカウンシルとの共催で国連大学 ウ・タント国際会議場で開催される。

⑤キーワード

- (1) 教員政策 (2) 教員養成 (3) 教員評価
(4) 知識基盤社会

⑥本研究の研究報告書

○シンポジウムの記録を報告書として作成し、都道府県教育委員会等の関係機関に配布すると同時に、ホームページでも公開している。

http://w.nier.go.jp/06_jigyous/symposium1.html